

地理歴史科・公民科（歴史総合）学習指導案

1 単元名 近代国家の形成

この単元は、「2 内容」の「B 近代化と私たち」の「(4) 近代化と現代的な諸課題」に該当する。

2 単元目標

- (1) 明治維新以降のわが国の近代化の推進過程について理解する。
- (2) 産業の発達について、資料から読み解く技能を身に付ける。
- (3) 近代の政治の展開と国際的地位の確立などを通じて、国民国家の形成および、日本の工業化の進展について、多面的・多角的に考察し、表現する。
- (4) 産業の発展の経緯と近代の文化の特色、大衆社会の形成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

3 単元計画(全体 2.5 時間)

(1) 指導計画

- ・近代化について 0.5 時間
- ・明治時代の近代化と近代化に対する問い 2 時間（本時 1 / 2）

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
・立憲体制への移行、国民国家の形成、産業の発展の経緯と近代の文化の特色、大衆社会の形成などについて理解している。	・明治時代の社会・経済・文化などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・明治時代における近代化について、多面的・多角的に考察し、表現している。	・明治時代の近代化におけるよい面と悪い面を見て、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

(3) 指導内容及び評価計画

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B) 具体的な評価規準 (C) 具体的支援	評価方法
			知	思	態		
第1次	・近代化について	【ねらい】近代化に関する興味・関心を高め、近代化とは何かに気付く、問題点を予想する。 ・自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調の視点について理解する。 ・「単元を貫く問い」に対して、答えるための、自らの問いを設定し、ロイロノートで提出する。			●	(B) 近代国家について、複数の側面から記述している。 (C) 成果物にコメントするなどの支援を行う。	・ワークシートの記述を基に評価する。
			【学習課題】〈単元を貫く問い〉「明治時代の日本はどのくらい近代国家と言えるのか？」				
第2次～第7次	・民権運動の展開 ・立憲政治への道 ・初期議会と日清戦争 ・政党の進出と日露戦争 ・産業革命と社会の変化 ・近代文化の形成と展開	【ねらい】明治時代の政治・経済・外交について学習し、立憲体制への移行、国民国家の形成、産業の発展の経緯と近代の文化の特色、大衆社会の形成などについて理解する。	○	●	●	(B) 近代国家について、複数の側面から記述している。 (C) 成果物にコメントするなどの支援を行う。	・ワークシートの記述を基に評価する。
			【学習課題】〈問い〉「自由民権運動は近代的な政治運動だったのか？」 など				

第8次	・近代化と現代的な諸課題	【ねらい】 明治時代の学習内容を基に、自ら問いを立てることによって、「近代化」について多面的・多角的に考察する。 ・近代化について ・本次の「問い」の構築	○	○	(B)近代国家について、複数の側面から記述している。 (C)成果物にコメントするなどの支援を行う。	・ロイロノートでの記述を基に評価する。
	【学習課題】〈問い〉「明治時代の日本は、どのていど近代的だったのか？」につながる問いを自ら立てる。					

4 本時の指導と評価の計画

(1) 本時の目標

ア 明治維新以降の国民国家の形成と産業化を基に、近代化について理解する。

イ 「明治時代の日本は、どのていど近代的だったのか？」につながる問いを自ら立て、自ら設定した問いに対する適切な解答を構想する。

(2) 本時の展開

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入	・明治時代について、各授業での問いに対する復習	※タブレットPC、ロイロノートを使用する。 ・一度、自ら立てた問いを振り返り、グループ内で意見交換する。 ・他生徒の解答を読み、近代化についてグループ内で意見交換する。	ロイロノート提出箱を確認させる。 ●【主体的に学習に取り組む態度】
展開	・問いの立て方と解答の仕方について	・教師の作成した見本と評価規準を基に、自ら問いを立てる。 ・自ら立てた問いに対して、タブレットPCを使って調べる。	ロイロノートでカードを配布する。 【主体的に学習に取り組む態度】 【思考・判断・表現力】
まとめ	・評価活動について予告	・評価規準について振り返り、調べた内容について確認する。 ・調べ学習を完成させて、次回授業までにロイロノートで提出する。	【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 本時の評価規準

周囲と相談して、自ら積極的に問いを立てる。できない者に対しては、グループ内で議論が進むよう、助言を与える。

5 評価問題（評価材料）及び評価規準

問題①

・「明治時代の日本は、どのていど近代的だったのか？」につながる問いを自ら立てる。

評価規準①

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例
・問いを近代化と関連付けて立て、自ら立てた問いに対して適切に解答している。（10点～18点）
「十分満足できる」状況（A）と判断される例
・近代化と関連付けた良質な問いを立て、資料を根拠に、問いに対して論理的に解答している。（19点以上）
「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導
・近代化と関連付けた問いを立てることができず、自らの問いにも解答できていない。（9点以下）

評価規準（小項目）	内容	評価	得点
① 明治時代の近代化と関わりある問いになっているか（主体性）	明治時代に関する問いであり，国民国家の形成，産業化の両面から近代化について考察できる問いである。	A	5
	明治時代に関する問いであり，国民国家の形成，もしくは産業化についての問いである。	B	3
	明治時代に関する問いであるが，近代化と関わりが無い。	C	1
② 必要な年表が作成できているか（知識・技能）	本文に対して過不足ない年表が作成できている。	A	4
	年表と本文につながりがある。	B	3
	年表と本文とのつながりが希薄である。	C	1
③ 自分の問いと内容が合っているか（思考・判断・表現）	問いに対して，論理的に説明している。	A	4
	内容が，問いに対する答えになっている。	B	3
	自分の問いと内容に対する関連性が希薄である。	C	1
④ 適切な資料が添付されているか（知識・技能）	内容を根拠付ける資料を添付している。	A	4
	内容と関連する資料を添付している。	B	3
	内容と関係ない資料を添付している。または，資料を添付していない。	C	1
⑤ 全体として，論理的に説明しているか。（思考・判断・表現）	全体の構成に一貫性があり，論理的に説明している。	A	5
	小項目について論理的に説明している。	B	3
	論理性がうすい。	C	1

6 成果と課題

(1) 課題設定の意図

歴史総合では，単元の振り返りとして「自ら問いを立てる」ことが重要となる。新学習指導要領「B 近代化と私たち」の「(4) 近代化と現代の諸課題」では，「自由・制限，平等・格差，開発・保全，統合・分化，対立・協調」という五つのテーマが示されている。この五つのテーマから，問いを自ら立てさせようとしたが，どのように問いを立てたらよいのか分からない生徒が多かった。そのため，授業を進めていく中で，1時間ごとのテーマとして，「問いの見本」を提示していき，最後に自らの問いを立てるようにした。

形式としては，「明治時代はどのていど近代的だったのか」という教員からの問いに答える形で，自らの問いを立てさせた。また，調べ学習をしていく中で，自由・制限など五つのテーマに気付かせるように工夫した。

(2) 授業展開の工夫

毎時の授業のまとめとして近代化に関する問いを投げかけた。各授業でのまとめは，答えが一つにまとまらないフリークエスチョンであり，とにかくたくさん書いたら評価をして「学習改善につなげる評価」につなげた。

また，本時の評価規準には，観点別評価を取り入れた。特に，主体性については，これまでの授業のまとめを生かし，よい問いの立て方をしている者に高い評価を与えるようにした。また，年表作成や資料の添付など，調べればできることも調査内容に盛り込み，評価を得る機会を増やした。

(3) 実践の成果と課題

本校は1人1台タブレットPCが配備されており，放課の時間等を使って調べ学習を行うことができた。そして，生徒の回答は，こちらの予想よりもはるかに多くの文章を記述していた。ウェブサイトのコピーする部分もあるため，ロイロノートで提出させるカードの枚数や文章量を制限しておくべきであった。

また、各授業のまとめの問いに対して、生徒は真剣に取り組んでくれたが、一人一人にコメントを返すことができなかった。文章でのコメントを残す時間がなく、小テストの間などに直接話をしてコメントを返してもよかった。

生徒が立てた問いに関しては、新学習指導要領に示された五つのテーマよりも、より日常に近い視点で解答していた。日常に近いテーマについては是非はあると思うが、生徒が興味・関心を持つのは日常に近い視点であろうと思う。

(4) まとめ

今回の実践では、「自ら問いを立てる」ことをさせ、「評価規準に観点別評価」を導入した。的外れな問い（問いの項目：評価C）を立てた者もいたが、調べ学習は全員が完成させることができた。

「自ら問いを立てる」ことは、特に社会科が苦手な生徒には難しいが、「調べ学習」はICT機器の補助があれば十分可能である。授業展開の中で「自ら問いを立てる」ことへの助けを出しておかなくてはならない。

また、調べ学習の成果について、一人一人細かくフィードバックする必要があると感じた。評価を伝える時間をどのように確保するかが課題である。今後は、自習やワークを解いている最中に、一人一人呼び出してコメントするようにしていきたい。

7 参考文献

- ・『現代の歴史総合 みる・読みとく・考える』（山川出版社、2021年）